

令和元年度 群馬県立農林大学校評価システムシート

令和2年3月5日

目指す学校像		群馬県農林業の多様な担い手育成					達成度	
重点方針		1 質の高い教育の実行 2 実績の上がる学生募集の実行 3 実績の上がる進路指導の実行 4 県民の期待に応えられる研修の実行					A 100% B 80%以上100%未満 C 60%以上80%未満 D 60%未満	
番号	課題	現状	評価項目	評価指標(数値目標)	達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
1	質の高い教育の実行	1 これからの群馬県農林業を支える人材を育成する県内唯一の公立農業系高等教育機関で、実践学習を教育の基本としている。 2 課題解決研究に取り組み、能動的に学ぶ力を育てている。 3 1年次は全寮制とし、寮生活を通して規律・協調・思いやりの精神を育てている。 4 農林業の国際化や技術・情報の高度化、農業の6次産業化に対応できる技術の習得や組織活動等のマネジメント能力を養成するため、実践学習を強化し、取り組んでいる。 5 国際水準GAPを教育カリキュラムに導入し、農場等での実習を通して、農業生産技術に加え国際感覚を兼ね備えた担い手を育成している。 ※ASIA GAP認証 平成29年12月13日 (野菜コース:トマト、キュウリ、ナス、イチゴ) 6 今年度から、IoT・ICT技術を学ぶため、スマート農業を教育カリキュラムに導入した。また、校内の園芸施設を複合環境制御技術が実践できるよう、新築2棟、全棟改修し、イノベーションファームが整備された。	・学生にとって分かりやすい授業の実施 ・学生がやる気と自信の持てる教育 ・地域、外部機関との連携 ・社会生活の基本を身につける ・教育環境の充実	◎学生の授業満足度評価 「おおむね満足」以上 80%以上	・前期 教養科目・共通科目19科目 (おおむね満足以上評価 77.8%) ・後期 教養科目・共通科目29科目 (おおむね満足以上評価 79.5%)	B A A B	・授業評価はよりよい授業を提供するため継続して実施する(R2はコース専門科目を対象) ・職員の資質向上を図るため継続して実施する(次年度も高度農業経営者教育機関が実施する指導力向上研修に応募する) ・アクティブラーニングはプロジェクトを継続するとともに、各コースで1科目以上導入する ・全国プロジェクト発表会での発表を目指し、課題研究の計画段階からコース・全体指導を行う ・全国プロジェクト発表会の発表方法を参考に、発表方法を改善する ・ヤンマー学生懸賞論文・作文等に積極的に応募する ・研修目的を明確にするとともに、事前指導を徹底し、受け入れ先とのトラブルをなくす ・GAP取組計画に基づき実施し、内部審査会でGAPレベルを維持、改善する ・スマート農業を学ぶカリキュラムを実践する ・開発した加工品の販売学習場所の検討 ・イオン高崎店での販売学習は継続して実施し、より多くの学生に機会を設けられるよう検討する ・スクールカウンセラーによる支援を行う ・地域行事に積極的に参加する ・100周年記念事業を通して地域や外部機関との連携を深める ・露地野菜現場教室女子トイレ新設	・課題研究などの経験を活かして将来課題に直面したときに対応できる力が養われている。課題研究発表で全国でよい結果が出た。 ・なぜこの課題に取り組むのか、この結果をどう活かすのか、どう現場に活かすのかをより明確にできればよい。 ・学校と現場を繋げる教育をしてもらいたい。 ・これからの農業のあるべき姿学生に伝える。 ・6次産業化で、地域との連携してどういう物を開発しているか教える。 ・スクールカウンセラーやメンタルヘルス面談は、とても大事。 ・農業の力で地域を活性化する役割と可能性がある。うまく地域活性化に繋がるような取組を考えてもらいたい。 ・地域での活動を伝え、地域が元気になる様なことができればよい。
				◎アクティブラーニング試行導入授業 8科目(各コース1科目以上)	・前期 7科目 ・後期 11科目			
				◎課題研究・意見発表で全国大会出場 1名以上	・全国大会出場者 2名(課題研究1名、意見発表1名)			
				◎懸賞論文等への応募者(森林コース除く) 1年生 100%	・1年生62名がヤンマー懸賞論文に応募(森林、社会人コース除く) 奨励賞:2名受賞、応募者:98.4%			
2	実績の上がる学生募集の実行	1 少子化により減少傾向であった入校生も、HPの更新や学生募集の強化、PRIによりH30年度から2年連続で増えてきている。(H30年度73名、H31年度86名/定員100名) 2 近年の入校生の状況は、非農家出身者の増加(H31入校生:70%)、女子学生の増加(H31入校生:35%)が特徴となっている。 3 本校入校生の約6割が農業高校出身者(H31入校生:59%)であり、農業高校との連携とともに、普通高校へのPRが重要となっている。	・農林大学校のPR ・農業高校との連携強化	◎オープンキャンパス 参加者数 実参加者150名 参加者の満足度評価 「おおむね満足」以上 90%以上	・オープンキャンパス参加者 実参加者(I~V)実165名 延べ237名(7/26:79名、8/7:57名、8/21:65名、9/7:26名、10/5:10名) ・参加者の満足度評価 「おおむね満足」以上 95%(無回答除く)	A A A A	・学生が中心となった運営を継続して実施する ・農林大の魅力や学生を確保するため継続して実施する ・学生から寮生活の様子を伝えるため、継続して実施する ・農業高校との連携強化のため、継続して実施する	・普通高校で直接でなくとも将来農業をやりたい学生がいないわけではない。普通高校へのPRが大事。 ・農村女性の会の「ともに輝くフェスティバル」で、農林大の成果の発表をしてもよいのではないかと。 ・GAPやスマート農業など、連携を進めてもらいたい。
				◎高校訪問 45校 2回実施	・6月(45校)、9月(29校)※訪問高校の見直し			
				◎HPの更新回数 100回以上	・更新回数 110回(3/5現在)			
				◎入校生の確保 80名以上	・入校予定者 83名(3/5現在)			
3	実績の上がる進路指導の実行	1 H30年度卒業生の進路決定率は100%で、進路決定者のうち就農23.0%(森林コースを除く29.2%)、就職77.0%、進学0.0%であった。農林業団体への就職が良好であったことが特徴である。 2 森林コースを除く就農率は、近年30~40%と減少傾向となっている。うち雇用就農は60~70%で雇用就農者が増えている。 3 家庭の事情等により、社会に出て経験を積んだ後に就農する学生もいる。 4 近年、林業への就業率は60%を超えている。特に森林組合への就業者は増加しており、林業の担い手として期待されている。	・(1年生) 進路希望の把握と進路指導体制の強化 ・(2年生) きめ細やかな進路別指導 ・専門資格取得教育の強化	◎進路決定率 100%	・進路内定率 100.0%(3/5現在)	A D B A	・学生の進路指導のため継続して実施する ・年2回開催(9月、3月) ・就農相談会等の情報提供を行い参加を誘導する ・農業の魅力や学生を確保するため継続して実施する ・就農相談会等の情報提供を行い参加を誘導する ・農業の魅力や学生を確保するため継続して実施する ・農業法人、農業経営士、農村生活アドバイザー、農林大OB、フロントランナー卒業生、農業女子など多くの先輩農業者から学ぶ機会を設ける ・学内企業説明会(農業法人含)を開催する	・就農率の目標40%は高すぎる。 ・毒劇物の合格率に前年の数字がない。 ・農業に取り組む上で資格取得は大事。
				◎就農率 40%以上	・就農率 22.1%			
				◎林業関係の就業率 60%以上	・就業率 50.0%			
				◎日本農業技術検定(2級)の合格者割合 30%以上	・合格者割合 34.5%			
4	県民の期待に応えられる研修の実行	1 H30年度は、定員を超える応募(145名/135名)があり、書類選考と面接により136名が入校した。R元年度は、受講生からのニーズに対応するため、推進品目課程を新設し、野菜基礎技術課程についてコース統合し定員を増やした。なお、修了3年後(H27年度実践学校修了者)の農業従事率は80.6%であった。 2 農業機械研修は、大型トラクター免許取得研修、作業機械研修、安全研修等を実施している。最近の傾向として高齢者、女性、雇用就農者の受講希望が多くなっている。 3 H30年度は、果樹、花き、野菜づくり、加工、農業機械まで幅広いテーマにより、一般県民を対象とした9講座で計12回開催した。参加者数は延べ378名であった。	・多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営 ・県民ニーズに対応した農業機械研修の実施 ・農林業に対する理解を深める公開講座の開催	◎実践学校研修生の満足度評価 「おおむね満足」以上 90%以上	・評価「おおむね満足」以上 修了課程の平均94%	A A A A A A	・就農に向け、研修生の意向に沿った研修の継続 ・受講者への意向調査を行い、再編案を検討する ・令和2年度よりトラクター操作講座を開設する ・JA等と連携して、担い手育成に取り組む ・大型特殊自動車運転免許(農耕車限定)等習得研修の充実	・実践学校の就農率の高さに驚いている。 ・トラクター以外にコンバインもやっていただけるとありがたい。 ・トラクター研修は画期的でよい。開催回数などの検討をしてください。 ・非農家の人々への公開講座の周知が必要。
				◎実践学校研修生の定員確保 100%	・入校者数/定員 141/136名 定員充足率 104%			
				◎野菜専門技術課程就農率 100%	・就農率 100%			
				◎修了3年後の農業従事率 80%	・農業従事率(平成28年度研修生) 82%			
				◎大型特殊自動車免許等取得合格率 100%	・免許取得 合格率 100% 大型トラクター基礎研修(未実施1回) 6回/100% 大型トラクターけん引研修 2回/100%			
				◎女性農業者基礎研修(I・II)の受講者数 2回/40名	・女性受講者数 4回/40名			
				◎農業機械安全研修の開催回数と受講者数 15回/150名	・安全研修開催数と受講者数 20回/437名			
◎公開講座受講生の満足度 評価「おおむね満足」以上 90%以上	・受講生の満足度 「おおむね満足以上」 95%							